

矢高同窓会報

発行所
岡山県小田郡矢掛町
岡山県立矢掛高等学校
同窓会
電話 (0866) 82-0045
82-0054
編集兼発行人
同窓会事務局
印刷所
有限会社あさひ印刷所

学んでよかった矢掛高校

矢掛高等学校同窓会副会長 植崎裕志
(昭和41年卒)



今これを読まれているほとんどの人は、矢掛高校で学んだ人だと思っ

青春時代の3年間を矢掛高校で過ごした人。その中身はそれぞれだと思っ。勉学に明け暮れた人、部活動に取り組んだ人、恋心や失恋を経験した人、生涯の友と出会った人。それぞれの高校生活だと思っ。でも今の高校生の学校生活は30年、40年前とは全く違う高校生活があるように思っ。

6月に矢掛町と矢掛高校で「包括協定」が結ばれた。今でも「やかげ学」などで、高校生が小学校や図書館、たかつま荘など地域のいろんな施設で活動していたが、今後は矢掛の町づくりにも積極的に参画し、活気ある町づくりの原動力になると同時に、今まで以上に魅力ある矢掛高校となることを目指すもので、矢掛町の期待も大きくそのために矢掛町も必要なこと

はできるだけ支援をしていくというものである。県立高校と市町村がこうした「包括協定」を結んでいるのは岡山県では2校だけである。矢掛の町づくりにとって矢掛高校の果たしている役割は多く、生徒の活動に支えられていたり、生徒の柔軟な発想力から新規の事業につながったりしたものもある。それは高校生にとっても自信や成長につながり卒業後の進路決定そして職業選択にも影響し、矢掛で働くようになった人もいる。

少子化で定員割れとなる高等学校も多いが、どの高等学校もその学校独自の魅力づくりに励み地域で果たしている役割は大きい。矢掛高校の「やかげ学」は全国的にも注目されていて、県外からの視察も多く「やかげ学」と同じような取り組みをしている高校もふえていく。

先日矢掛高校の大先輩の渡辺武次郎さんのマンガふるさとの偉人が出来上がった。矢掛で生まれ矢掛高校で学び、日本の財界の重鎮として活躍された方だ。その渡辺武次郎さんが生涯座右の銘としていたのが「至誠力行」という矢掛高校の校訓である。矢掛高校は渡辺武次郎さんだけでなく、多くの大先輩を輩出している。でも一番大切なのは、今矢掛高校で学んでいる生徒、矢掛高校を卒業した生徒が「矢掛高校に来てよかった!」と思えることだ。失敗や挫折もあるだろう。でもその時「あの友達がいた」「あの先生がいた」と思えるような高校生活だったなら最高。そこまではなくても失敗や挫折から立ち上がる力を付けることが大切。今の矢掛高校にはそうした力を付ける風土があるように思っ。それは学校内だけでなく矢掛という地域にも。

同窓会は高等学校を卒業すると同時に入会するが、ややもすると定年後の人の集まりというイメージもある。そうではないいろいろな年代の人が関われ、矢掛高校を盛り上げた応援していけるような組織となれば、矢掛高校だけでなく矢掛の町全体の活性化につながるのではないかと思っ。

『矢掛町と矢掛高校との連携協力に関する包括協定』について

校長 高月秀人
(昭和55年卒)



長の石井祥一郎様をはじめ、この同窓会に集われた諸先輩方に、深い敬意と感謝の念を抱いた同窓会でした。

同じく6月2日(日)には、総社市国民宿舎サンロード吉備路におきまして、倉敷たかつま会総会が開催されました。もちろん私も参加させていただきました。会長の土師眞一様をはじめ、主に倉敷市そして矢掛町にお住まいの方々の総会、懇親会は本当に和気あいあいとした雰囲気

今後も矢掛高校や矢掛高校の同窓会にアイデアや忠言、そして御協力をお願いします。

しても足りないくらいいの元気の素をいただいた次第です。

次年度より関東支部長には木口利男様(昭和45年卒)が、倉敷支部長には中西 章様(昭和41年卒)が就任されます。今まで支部長として御尽力いただいた石井様、土師様には心から感謝申し上げますとともに新たに支部長に就任された木口様、中西様には改めましてよろしくお願い申し上げます。

さて、私は折につけて校長室にある歴代のアルバムを拝見することがあります。どのアルバムの写真からも当時の高校生たちのあふれんばかりの若々しい、澁瀬としたエネルギーが伝わってきます。「当時は中学生も、この地に育った者は矢掛高校に進学するのが当たり前でした。他の選択肢は全く考えなかった。」と、ある卒業生の方もおっしゃっておられました。当時は矢掛町など岡山県の中山間地域にも人が多く、高校入試は小学区制で、交通手段も限られて

いましたから、地元で育った中学生の大多数が矢掛高校に進学しており、他の高校に行くという発想そのものがなかったというところもありますが、それにしても、こんなにも多くの若者が本校に集まっていたのかと驚かされます。

本校の長い歴史において、この10年間は、大きな変動の時期となつていくことに気づかれます。

現在、社会を取り巻く情勢は激しい勢いで様変わりし、教育に対する改革も急務の課題となり、長期的な展望に立つたうえでの魅力ある学校づくり、地域との連携に基づく開かれた学校づくりが求められています。県内において岡山市、倉敷市以外の地域では、少子化の影響が顕著なものとなり、多くの高等学校が定員割れの状況となっておりま

す。幸いなことに今回の高校入試では本校は普通科の定員を上回り、地域ビジネス科もわずかに定員を下回る志願者状況でしたが、岡山市において岡山市と倉敷市以外の特

に普通科校は大きく定員を下回る状況が見られました。この傾向は本県の山間地域の少子化が今後も続く中で、本校も更なる魅力化の促進と、地域との連携を通じて、地域の活性化になくてはならない存在であることが重要になってくると予想されます。

6月19日には、地元矢掛町と本校との間で『連携協力に関する包括協定』の調印がありました。この協定の目的につきま

しては次のとおりです。

第1条に「この協定は、多様な分野において包括的な協力関係を築き、連携を深め、若者世代のまちづくりへの参画機会を増やすとともに、継続的にまちづくりに関わり続ける環境をつくり、地域において様々な分野で活躍できる人材を育てていくことを目的とする」

第2条に町と高校との連携・協力につきま

して、「町と矢掛高校は、町の定める最上位計画に基づくまちづくりの実現及び矢掛高校の掲げる教育目標、方針の達成に資するため、次に掲げる事項について、連携、協力するものとする」

(1)まちづくり、地域の活性化に関する事項
(2)人材育成に関する事項
(3)地域の小・中学校の取組をふまえた高等学校教育の魅力づくりの推進
(4)教育環境の整備に関する事項
(5)その他前条の目的を達成するために、町及び矢掛高校が必要であると認める事項

すでに今までも「学校の魅力化」のための取組とともに「確固とした地域連携の組織づくり」に重点を置いた実践の過程で、矢掛町及び地域の方々による御支援と御協力のもと、多くの収穫がありました。今回の包括協定は、矢掛町が矢掛高校の地域における存在

意義を再確認し、その存在を町の活性化のためにも必要不可欠であると明確な形で明文化したものととなっております。

この包括協定により、「学校と地域とが連携して、この地域で育った子どもたちを、自立し、社会貢献できる若者に育てる」、「矢掛高等学校が地域にとって必要不可欠な、地域活性化の一翼を担う存在である」という共通認識を地域と矢掛高校とで再認識できたことは大変重要なことであると考えます。

今まで以上に地域及び各種関係機関との連携を深化させ、矢掛高等学校が、地域活性化の一翼を担える、地域になくならない存在へと更なる成長を遂げるべく、教職員、生徒、保護者の皆様、同窓会の皆様、地域の方々と共に鋭意邁進して行きたいと思ひます。

本校の存在意義を深く考察してみますと、120年

を超える歴史の中で、常に多くの若者の夢を育み、その澁瀬とした若い力によって、地域に勇気と誇り、そして活力を与え続けてきた本校の軌跡が改めて見渡されます。長い間、この地にあつて当たり前であった存在、公的な教育機関である矢掛高等学校のこれからの存在意義を、今以上に堅固に、そして魅力的に紡いで行けたらと強く決意する今日この頃です。

同窓会の皆様には、今後ともあたたかい御支援と御協力をよろしく願ひいたします。

矢掛町と岡山県立矢掛高等学校との連携協力に関する包括協定書調印式



矢掛高校同窓会 あれこれ

令和6年度

関東支部 総会

令和6年
5月17日関東支部長 木口利男
(昭和45年卒)

石井支部長の開会挨拶

ました。

令和6年度の関東支部総会及び懇親会が5月17日(金)12時から東天紅国際フォーラム店で開催されました。昨年の総会案内を行った際に、支部員の数名から参加したいが夜間の外出は控えているので参加できないという声があったため、参加者増を願って今年は昼間の開催といたしました。その結果、支部員42名の参加となり(昨年比+13名)大変にぎやかな会となりました。



豪華ビュッフェ+飲み放題

総会では来賓の池田会長から各地の同窓会の近況報告と、観光客が増えて活気がある矢掛町の現況について報告がありました。また同じく来賓の高月校長からは、今年度は近隣の公立高校が苦戦する中にもかかわらず、矢掛高校には募集定員を満了す入学希望者があ



最大勢力の昭和38年卒業組

自然光の入る明るいスペースでしたので参加者の皆さんの顔色も明るく、一年ぶりに会った常連メンバーや初参加の人も一緒に丸テーブルを囲み昔話に花が咲きました。参加者の最年長は小出昌成さんと戸出正夫さん(昭和27年卒)で、今年も小出さんに元氣一杯の乾杯の御発声をお願いしました。

立大学に多数の生徒が合格したとの報告がありました。またやかげ学を学んでいる生徒たちの存在は、地元には欠かせない存在になっていると説明いただきました。

矢掛町長からは懐かしい故郷の味のお土産と、矢掛町の名誉町民である渡辺武次郎さんの生涯を描いた漫画本をいただきました。大先輩の矢掛町への貢献を知ることができて大変感銘を受けました。

東天紅国際フォーラム店は、「船」を題材にしたガラスの吹き抜けホール(ガラス棟)の7階にあります。総会・懇親会会場はオープンスペースのテラスで、



昭和45年卒業組

昼間の開催に変えたことで参加者の増加には成功しましたが、平日の昼間だった為現役世代のOBが参加しにくかったのが今年の反省点です。来年は土、日の開催にしてより多くの方に参加しやすい同窓会にしたいと思います。

第37回倉敷たかつま会総会 国民宿舎「サンロード吉備路」にて
令和6年6月2日

第37回

倉敷たかつま会
総会

令和6年6月2日

倉敷支部長 中西章
(昭和41年卒)

初めまして、倉敷たかつま会会長に就任致しました。

昭和41年卒業、少し年を取り過ぎてはおりますが、頑張りたいと思っております。

倉敷たかつま会は昨年に続き「第37回総会をサンロード吉備路」にて高月校長の御出席を頂き24名にて、トリオで詩吟(3名で)、トランペット演奏、カラオケと余興も取り

混ぜ和やかに行われました。

高月校長から矢掛高校の現状説明を戴き、昨今少子化の影響で定員割れの学校の多い中で、矢掛高校は、入学希望者も多く定員オーバー傾向との事、先生方の努力の跡が見受けられます。ありがとうございます。

わが倉敷たかつま会の会員数も、新人3名加入もあり、頼もしく思う反面、御高齢・体調不良で脱会される方もあり、今後会員の増加が大きな課題となります。会員増加に努力して参ります。



コロナ禍で中止を余儀なくされていた、矢掛高等学校・旧矢掛中学校・同窓会総会及び懇親会が、令和5年11月5日(日)倉敷アイビースクエアに於いて、134名の同窓生(昭和24年〜平成4年卒業生)が出席して開催されました。

令和5年度

同窓会総会

幹事団より

幹事長 森 博 史
(昭和47年卒)

4年ぶりということな
どもあり、当初は手探り
状態で遅々として準備が
進まない状況でしたが、
同窓生(先輩、後輩)の
力添え、同窓会本部・支
部の支援、同窓会総会開
催の広報活動(諸所への
案内掲示、ケーブルテレ
ビでの案内放映)、配布
資料や記念品の準備など、
多方面の協力を得ること
ができた、開催することが
できました。

総会は物故者への黙祷
から始まり、池田道孝会
長の挨拶では、同窓会の
現状や活動状況の報告な
どがありました。続いて



今年度幹事代表が開催の
挨拶を行った後、校歌(旧
矢掛高等学校・矢掛高
等学校)を斉唱しました。
矢掛高等学校校長の高
月秀人先生の挨拶では、
母校の現状や取り組み、
公的教育機関としての存
在意義などについて話を
していただきました。

最後に同窓会事務局長
の細川誠先生に議事を進
めていただき、資料(矢
高同窓会報50号)を基に
令和4年度事業報告及び
会計決算、令和5年度事
業計画及び会計予算など
について説明がありまし
た。御出席の皆様が協力
で滞りなく進行すること
ができました。

懇親会は、令和4年に
矢掛高校支援の輪を広げ
る目標で設立された同窓
会矢掛町役場支部支部長
の山岡敦町長の挨拶(矢
掛町役場支部について、



水島灘源平太鼓

勇壮な演技は皆を魅了しました



矢掛高校への支援につ
いてなど」と乾杯の音頭で
始めました。

飲食をしながらの歓談
時間に入り、最初に開催
を祝って、水島灘源平太
鼓(メンバー6人、代表
は昭和46年卒業の同窓
生)による魅力的で迫力
のある和太鼓の演奏で盛
り上げていただきました。

その後、令和3年12月
17日に行われた矢掛高等



学校創立120周年記念
式典の映像(無音声)が
檀上スクリーンに流れる
中、和やかな雰囲気です
交を温めたり親睦を深め
たりしながら有意義なひ
と時を過ごしました。

懇親会後半では、母校
の変動期に在籍(旧矢掛
高等学校)し、昭和24
年に卒業された、最年長
出席者の方に、池田会長
よりサプライズで記念の
花束を渡していただきま
した。さらに、お楽しみ
抽選会も行われ、時間が
経つのも忘れるほどの雰
囲気で交流の輪が広がっ
ていました。

終了時刻が近づき、令
和6年度の同窓会総会開



催について、担当する昭
和48年卒業生の代表から
挨拶をしていただいた
後、今年度幹事が閉会の
挨拶を行い散会となりま
した。

御出席の皆様には、母
校の教育活動を支援する
ための募金に御協力して
いただきました。また、
お礼の言葉やお便りもた
くさんいただきました。
心からお礼申し上げます。

幹事一同、開催できた
喜びとともに、同窓生、
矢掛高校教職員及び協力
していただいた全ての皆
様に、深く感謝申し上げ
ます。

高校三年間を振り返って

河上 将大 (令和6年卒)

高校三年間を通して一番大変だったのは、受験期です。自分はテスト勉強で、夜更かしして勉強などしたことがなかったの

令和6年 卒業生より

と思います。まず、自分の志望校の試験内容をしっかり把握し、そのみに集中して勉強するこ

とです。二次試験では3教科だけでなく小論文なども、試験内容に入ってきます。そして、小論文はある程度の数をこなさないといけないので、集中的に解いたりするなど、自分の志望校に合った勉強方法を見つけていきたいと思います。次に、夜更かしをしての勉強は効率が悪いです。記憶というものは寝るときに、必要なものとそうでないものの取捨選択をおこないます。つまり、しっかりと寝ないと体に悪いだけでなく、記憶の定着にも影響して効率が悪くなります。なので、勉強時間を多くとりたいときは、少し早く起きて朝方に勉強することがよいでしょう。そして、受験期は勉強ばかりでストレスがたまったりするので、自分に合ったストレスの解消法を見つけることが、受験を成功させるための

カギとなるかもしれません。

高校は中学校よりも勉強が大変になりめんどくさいこともたくさんありますが、もちろん楽しい行事や、自分の好きな分野

受験勉強を通して

室崎 真央 (令和6年卒)

について詳しくなれたり、楽しいことやわくわくしたりすることがたくさんあり、3年間はあっという間に過ぎてしまうので高校生活一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

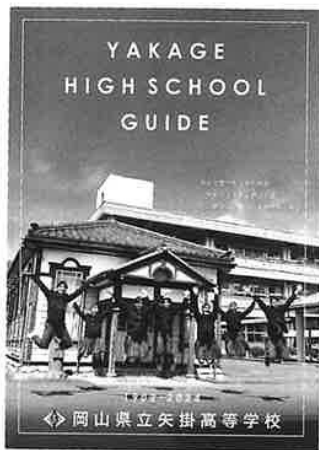
私が高校生活の中で一番印象に残っていることは受験対策です。私の場合、「書道」というあまりメジャーではない分野での大学進学を目指していたため、クラスの中の他の人がするような受験対策とは全然方向性が違っていました。志望大学の一般選抜の受験内容が書道実技一本であったため、他の人が対策しているような小論文や学力検査に向けてなどの対策はしていませんでした。その分受験科目が書道実技であったため、私はほぼ毎日放課後学校の書道準備室で実技試験に向けての対策をしていました。

この受験勉強の中で楽しかったことは、友達が受験勉強に付き合ってくれたことです。先に総合型や推薦型で大学が決まった友達に、たまに自分が受験勉強をしている最中に一緒に残ってくれて、会話をしながら受験勉強をするということがありました。「受験」という不安や心配などの感情が、「友達と一緒に勉強する」ということで緩和されていくようで、私はその時間がとても好きでした。毎日4時過ぎから6時過ぎ、または7時近くまでずっと書いていたことがほとんどだったので、一人でする受験勉強と誰かと一緒にすることの差をより大きく感じました。自分の中でうまく書くことができなかったものでも、友達は「上手じゃん!」とほめてくれることが多く、自己肯定感や自信につながり、その分実技に取り組む姿勢やメンタル面での成長につながっていました。

自分のことを支えているという自覚はいるという自覚は、その友達にはなかったと思います。私は実際その一緒に受験勉強に付き合ってくれた友達の存在にとっても助けられました。その他にも修学旅行や矢高祭など、楽しい出来事はたくさんあったけど、自分の中で一番友達の存在を大きく感じ、助けられた思い出は受験勉強の時でした。皆さんももし友達に不安を抱えていたり、何かで悩んでいたりと、またほかには何かに挑戦していることがあったら、一人でする受験勉強と誰かと一緒にすることの差をより大きく感じました。自分の中でうまく書くことができなかったものでも、友達は「上手じゃん!」とほめてくれることが多く、自己肯定感や自信につながり、その分実技に取り組む姿勢やメンタル面での成長につながっていました。

たら、そばにいてあげてください。それだけでその人は自分に対する「支え」を感じます。

自分のこのような受験勉強での経験から、先生方が「受験は団体戦だ」と言っている本当の意味が理解できたような気がします。周りに頼ったり一緒にいたりすることで解決、成長できることは本当に多く存在することを身に染みて実感しました。大変なこと、不安に感じることが今までもたくさんあったけど、人とのつながりをとても濃く感じた受験期が私にとってかけがえのない思い出として今存在しています。当時私を支えてくれた友達のように、私も誰かを支えられる存在になることができていればいいなと思います。



岡山県立矢掛高等学校

事務局より

一、同窓会常任幹事会について

令和6年7月20日(土)、本校高妻会館において常任幹事会が開催され、次の6件について協議された。

(一) 役員の交代について

(二) 令和5年度事業報告及び会計決算について

(三) 令和6年度事業計画及び会計予算について

(四) 被表彰者について

(五) 令和6年度同窓会総会について

(六) 令和7年度同窓会総会の幹事団について
これに関わって、3件について説明する

(一) 役員の交代について (敬称略)

1. 倉敷支部 支部長

(退任) 土師 眞一 (昭39卒)

(新任) 中西 章 (昭41卒)

2. 関東支部 支部長

(退任) 石井祥一郎 (昭36卒)

(新任) 木口 利男 (昭45卒)

同 幹 事

(退任) 川井 洋右 (昭35卒)

(新任) 小門 謙 (昭45卒)

3. 監査委員

(昨年度退任) 水口 東 (昭37卒)

(新任) 藤井 秀彦 (昭50卒)

(二) 令和7年度同窓会総会について

来年度の同窓会総会の幹事団はローテーション表により、「昭和49年卒」「昭和59年卒」「平成6年卒」「平成16年卒」「平成26年卒」「令和6年卒」の6期の卒業生が担当することになる。

二、被表彰者について

○倉敷支部(支部長) 土師 眞一 (昭39卒)
○関東支部(支部長) 石井 祥一郎 (昭36卒)

令和5年度 事業報告

月 日	事 業 内 容 (※印は支部活動・その他)
5月16日(火)	第1回 同窓会総会準備委員会 (矢掛高校)
5月16日(火)	※関東支部総会 於：リコッタ丸の内(旧ボールスター) 25名
6月 4日(日)	※第36回倉敷たかつま会総会 於：サンロード吉備路 24名
7月 7日(金)	会計監査委員会 於：本校応接室
7月14日(金)	第2回 同窓会総会準備委員会
7月22日(土)	同窓会常任幹事会 於：本校高妻会館1階
9月 9日(土)	第3回 同窓会総会準備委員会
10月 5日(木)	第4回 同窓会総会準備委員会
11月 5日(日)	同窓会報第50号発刊
11月 5日(日)	同窓会総会 於：倉敷アイビースクエア(エメラルドホール) 134名
2月29日(木)	同窓会入会式 於：本校 入会者：110名
3月26日(火)	「伸びる・伸ばす矢高奨学金」授与式 7名

令和6年度 事業計画

月 日	事 業 内 容 (※印は支部活動・その他)
5月15日(水)	第1回 同窓会総会準備委員会 (矢掛高校)
5月17日(金)	※関東支部総会 於：東天紅東京国際フォーラム店 47名
6月 2日(日)	※第37回倉敷たかつま会総会 於：サンロード吉備路 24名
7月 7日(日)	会計監査委員会 於：本校応接室
7月 9日(火)	第2回 同窓会総会準備委員会
7月20日(土)	同窓会常任幹事会 於：本校高妻会館1階
9月 日()	第3回 同窓会総会準備委員会
10月 日()	第4回 同窓会総会準備委員会
11月 4日(月祝)	同窓会報第51号発刊
	同窓会総会 於：倉敷アイビースクエア(エメラルドホール)
2月28日(金)	同窓会入会式 於：本校 入会予定者：91名
3月 日()	「伸びる・伸ばす矢高奨学金」授与式

令和5年度 同窓会会計決算書

令和6年3月31日 (単位：円)

収入の部

項 目	予 算 額	収入済額	比較増減	摘 要
入会金	666,000	660,000	△6,000	⑥6,000円×110人(令和6年3月卒業生)
寄付金	0	475,253	475,253	令和5年度同窓会総会幹事団から
雑収入	1,019	125	△894	普通預金・積立定期預金利息
繰越金	1,046,981	1,046,981	0	前年度繰越金
合 計	1,714,000	2,182,359	468,359	

支出の部

項 目	予 算 額	支出済額	差引残高	摘 要
会議費	15,000	2,262	12,738	常任幹事会
総会費	150,000	150,000	0	総会準備金(令和5年度同窓会総会幹事団へ)
通信費	70,000	9,968	60,032	切手・葉書
旅 費	150,000	49,640	100,360	関東支部総会参加
領収・宛領	66,000	66,000	0	横広済堂ネクストへ
渉外費	100,000	0	100,000	
備品費	0	0	0	
需用費	250,000	209,300	40,700	会報印刷・卒業記念品(印鑑)・振替手数料等
慶弔費	50,000	0	50,000	表彰者記念品(備前焼)
慶弔費	50,000	0	50,000	
積立金	300,000	300,000	0	新規積立定期預金(同窓会積立金会計へ)
予備費	513,000	0	513,000	
合 計	1,714,000	787,170	926,830	

(収入済額) 2,182,359円 - (支出済額) 787,170円 = (次年度繰越額) 1,395,189円

岡山県立矢掛高等学校教育振興会

(創立110周年記念事業募金) 令和5年度 会計決算

令和6年3月31日 (単位：円)

収入の部

項 目	金 額	備 考
前年度残金	214,167	
利 息	5	
繰 入 金	1,000,000	同窓会積立金会計から繰入
合 計	1,214,172	

支出の部

項 目	金 額	備 考
需 用 費	550	奨学金表彰用祝のし袋
伸びる・伸ばす矢高奨学金	700,000	10万円×7名
合 計	700,550	

(収入済額) 1,214,172円 - (支出済額) 700,550円 = (次年度繰越額) 513,622円

令和6年度 同窓会会計予算書(案)

(単位：円)

収入の部

項 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	比較増減	摘 要
入会金	540,000	666,000	△126,000	⑥6,000円×90人(R7年3月卒業予定者数)
寄付金	0	0	0	
雑収入	811	1,019	△208	預金利息
繰越金	1,395,189	1,046,981	348,208	前年度繰越金
合 計	1,936,000	1,714,000	222,000	

支出の部

項 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	比較残額	摘 要
会議費	15,000	15,000	0	常任幹事会
総会費	150,000	150,000	0	総会準備金(令和6年度同窓会総会幹事団へ)
通信費	70,000	70,000	0	切手・葉書
旅 費	150,000	150,000	0	関東支部総会・近畿支部総会参加
領収・宛領	66,000	66,000	0	横広済堂ネクストへ
渉外費	100,000	100,000	0	
備品費	0	0	0	
需用費	250,000	250,000	0	会報印刷・卒業記念品(印鑑)・振替手数料等
慶弔費	50,000	50,000	0	表彰者記念品
慶弔費	50,000	50,000	0	
積立金	300,000	300,000	0	学校・生徒への還元
予備費	735,000	513,000	222,000	同窓会積立金会計へ繰出
合 計	1,936,000	1,714,000	222,000	

(必要に応じて項目間の移用を認める。)

令和5年度 同窓会積立金会計決算書

令和6年3月31日 (単位：円)

項 目	予 算 額	収入済額	支出額	差引残額	摘 要
繰越金	6,300,000	6,300,000	0	6,300,000	平成20~22・24~令和4年度積立金
積立金	300,000	300,000	1,000,000	△700,000	令和5年度本会計から繰入 教育振興会会計へ繰出
合 計	6,600,000	6,600,000	1,000,000	5,600,000	

令和6年度 同窓会積立金会計予算書(案)

(単位：円)

項 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	比較増減	摘 要
繰越金	5,600,000	6,300,000	△700,000	平成22・24~令和5年度積立金
積立金	300,000	300,000	0	本会計から繰入
合 計	5,900,000	6,600,000	△700,000	